

令和3年度 研究推進計画

令和3年4月2日
推進部・研究担当

1 本校で育てたい資質・能力

	生きて働く「知識・技能」の習得	未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養
質 資	主体性	表現力	やりきる力
力 資 の 質 説 質 明 質 能 能	学習や生活において、自分の意志や判断で自ら進んで取り組む力。	場面に応じた様々な表現方法を理解し、自分の思いや考えを自分らしく表現する力。	学習や生活において、自分で決めた目標に向かってあきらめないで最後までやりきる力。
低 学 年	課題や対象に進んで関わり、意欲的に学習したり生活したりすることができる。	相手や場面に応じ、自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができる。	課題に対し、最後まであきらめないでやり通すことができる。
中 学 年	課題解決のために工夫をしたり、自分なりの考えや思いをもって課題や対象に進んで関わったりすることができる。	相手や目的に応じて、根拠や事例を挙げながら、自分の考えたことや判断したことを適切に表現することができる。	課題に対し、自分で目標を立て、あきらめないで最後までやりきるることができる。
高 学 年	課題解決のために、見通しをもって計画的に取り組む、自分なりの考えや思いを基に、他者の考えを受け入れながら課題や対象に進んで関わるることができる。	目的や意図に応じて、論理の展開や表現の仕方などを工夫しながら、自分の考えたことや判断したことを効果的に表現することができる。	やるべき課題は何かを明らかにし、自ら目標とそのために行うべきことを考え、最後までやりきるることができる。

2 研究主題

主体的・対話的で深い学びの創造 ～建設的な話し合いを通して高まり合う児童をめざして～

3 研究主題設定の理由

本校は昨年度、「主体的・対話的で深い学びの創造～話し合い活動で必要な力を育てる授業づくりを通して～」として、研究推進教科・領域を特別活動とし、研究をスタートさせた。しかし、COVID-19の世界的な大流行により、学習活動が制限され、児童が頭を突き合わせてじっくり意見を交わす「話し合い活動」を行うことができなかった。そのような状況下、感染症拡大を予防しながらも、全体研修及びブロック研修を行い、「同じ方向を向いて（お互いが向き合わない）ペアトーク」など、人数や隊形を工夫しながら話し合い活動を取り入れてきた。

試行錯誤しながら行ってきた研究だが、児童自らが必然性をもった主体的な話し合い活動をするまでにはできていない。また、このような状況下、全く話し合い活動を取り入れずに行う授業と、少しでも話し合い活動を取り入れる授業、両方を経験することができた。その時に実感したことは、「児童の学びを深めるには、話し合い活動は不可欠だ。」という思いである。そこで、しっかり感染症拡大防止対策を実施しながら、昨年度に引き続き話し合い活動を取り入れ、建設的な考えを出し合うことでお互いに高まり合い、学びを深めさせていかななくてはならないと考えた。

以上のことから、本年度の研究課題を「主体的・対話的で深い学びの創造～建設的な話し合いを通して高まり合う児童をめざして～」と設定し、生活科・総合的な学習の時間の授業を中心として取り組んでいく。また、本校で身に付けさせたい資質・能力を引き続き「主体性」「表現力」「やりきる力」の3つに設定し、生活科・総合的な学習の時間の授業を中心に、より一層の充実を図りたいと考える。昨年度までの

学級活動で身に付けた力が生活科・総合的な学習の時間をはじめ、他教科・領域の話合い活動に生かせるようにするために、カリキュラム・マネジメントを実施していく。また、「意見交流だけの話合い」ではなく、「深い学びにつながる話合い」にするため、児童の思考を整理しながら話し合うことができる思考ツールも取り入れたり、建設的な話合いにするための方法を考えたりしていく。さらに、授業による研究と並行してミニ研修も内容をさらに充実させ、基礎基本の定着にも取り組みたいと考えている。

4 研究仮説

カリキュラムをマネジメントして、建設的な話合いにするための方法を考えたり、思考ツールを利用してお互いの考えを整理しながら少人数での話合いを取り入れた授業づくりをしたりすれば、自分の思いや考えを主体的に伝え合い、お互いに高まり合おうとする子どもを育成することができるであろう。

5 研究内容と方法

(1) 手立ての工夫

建設的な話合いの方法の習得

- 建設的な話合いにするための方法を提示する。
- すべての教科・領域で建設的な話合いに取り組む。
- 建設的な話合いにするための指導方法の研修をする。
- 学級活動での話合いをさらに充実させる。

学力向上のための基礎力養成の工夫

- 学力向上のための工夫をする。
朝のドリルタイム、東っ子プリント（復習プリント）、CRT テストの実施

(2) 研究推進教科・領域

- 生活科・総合的な学習の時間
 - ・プロジェクト型学習による探究的な学びを目指した考え続ける課題の主体的設定
 - ・深い学びにつながる建設的な話合いによる協働的な学び
 - ・集団思考場面等での思考ツールの活用
 - ・だれ一人取り残さない持続可能な社会を目指し、単元のプロジェクトのSDGsとの関連付け
 - ・探究的な学習を支える話合い活動が、建設的なものになるように、視点を示してからの話合い。

(3) 主体的・対話的で深い学びの創造に向けて

- 育てたい資質能力を見通した単元構想図の作成
- 主体的な学び
自ら課題を見出し、解決方法を決めて実践・振り返りを行う学習過程の重視
- 対話的な学び
建設的に話合いを進めることができるように、相手の意見を受け入れてから、助けになる具体的な意見を述べる方法の習得
- 深い学び
SDGsと関連付けたプロジェクト型学習を基盤に置き、持続可能な社会を目指して「考え続ける」という学習方法の習得
- 各教科・領域等をつなぐカリキュラム・マネジメントの推進

(4) 校内研修の運営

- 研究推進委員会を中心に理論研修・協議会を実施する。
- 一人1回以上、単元構想図及び学習指導案を作成し、授業提案を行う。
- 低・中・高学年のブロックで学習指導案の作成、事前授業、授業提案等の授業研究を運営する。特別支援学級及び専科はそれぞれ授業提案を行う。

6 研究の指標

指標	達成目標	実施時期
標準学力調査（CRT）国語・算数	前年度平均以上（1・2学年は全国平均以上）	12月
資質・能力に関する児童アンケート 「相手の意見を受け入れてから、助けになる具体的な意見を述べています。」	肯定的評価の割合が70%以上	6月・12月
授業評価シート	3以上	授業研究実施後

7 校内研修日程

	月日	内容	担当・授業者	講師等
	4/	研究推進計画案について	研究主任	
	4月下旬	総合的な学習の授業づくりについて理論研修	研究主任	
全	6/16 (水)	全体研・授業 生活科・総合的な学習の時間		比治山大学 現代文化学部 子ども発達教育学科 上之園公子教授
全	7/28 (水)	全体研修		
全	10/20 (水)	全体研・授業 生活科・総合的な学習の時間		
全	1/19 (水)	全体研・授業 生活科・総合的な学習の時間		
ブロック	6/ ()	ブロック研・授業 学級活動 ()		
ブロック	10/ ()	ブロック研・授業 学級活動 ()		
ブロック	1/ ()	ブロック研・授業 学級活動 ()		

	内容	時期		内容	時期
1-1			5-1		
1-2			5-2		
1-3			6-1		
2-1			6-2		
2-2			たんぼぼ1		
3-1			たんぼぼ2		
3-2			たんぼぼ3		
4-1			音楽・家庭科		
4-2			理科		

- ※ 一人1回授業を提案する。
- ※ 全体研の授業は、低・中・高学年で1つずつ行う。全体研を行わない学年は、ブロック研を行う。
- ※ 専科は、プロジェクト型学習で話し合い活動を取り入れた授業を計画し、授業提案を行う。専科が授業を行う当該学年のブロックで授業参観を行う。
- ※ 特別支援学級については、児童の実態把握と理解を深めるための児童観察を早い時期に行う。

8 その他

○ 講師依頼

比治山大学 現代文化学部 子ども発達教育学科 上之園公子教授